

注 2. 「林網化農地」は防護林が整備された農地の意味である。

注 3. 表中の（1）は要治理総面積の 60%の意味である。

注 4. 表中の（2）は要治理総面積の 50%の意味である。

なお、中国の将来展望に関しては、2030 年までに人口の増大をストップさせ、2040 年までに資源、エネルギーの消費の増大をストップさせ、2050 年までに生態環境の修復を完了させるという構想が提起されている。人口の増大に関しては既に目処が着いており、生態環境の修復も、「三北防護林建設」、「天然林保護」、「退耕還林」等の林業の 6 大重点プロジェクトの推進等に見られるように着々と進んでいる。前途は遼遠であるが、燭光は見えていると言って良いであろう。

## 6. 農業災害の発生状況

### （1）全国の状況

#### 1) 全体状況

全国の農業災害の発生状況は別表 6－1 のように推移している。

先ず、1980 年～2000 年の平均値では、毎年播種面積の 31.0%が何らかの被害を受けており、また、播種面積の 16.0%が平年作の 30%以上の減収となる被害を受けている。ここで注意しておくべきことは、毎年このような災害の被害を受けながら、中国農業は表 2－1 のような実績を挙げていることである。逆に言えば、この程度の災害被害があることが中国の常態であるということである。つまり、中国の農業災害の報道に接した場合、その被害がこの程度であれば大勢に影響はないということである。

次に、1980 年～1990 年の 10 年間と 1991 年～2000 年の 10 年間の受災面積率（総播種面積に対する被害の程度を問わず災害を受けた面積の割合）と成災面積率（総播種面積に対する平年作より 30%以上減産した面積の割合）の平均値を比較すると、後者の方がいずれも大きくなっている。即ち、近年は農業災害が多発しているということである。

#### 2) 災害別の状況

災害の種類別の発生状況は別表 6－2 のように推移している。1980 年～1990 年の 10 年間と 1991 年～2000 年の 10 年間の成災面積率の平均値を比較すると、前者より後者の方が増大しているのが水害、旱魃、凍霜害であり、前者より後者の方が減少しているのが風雹害となっている。

また、全成災面積（平年作より 30%以上減産した面積）に占める各災害のシェアは、別表 6－3 のように推移している。1980 年～1990 年の 10 年間と 1991 年～2000 年の 10 年間を比較すると、前者より後者の方が増大しているのは、水害と凍霜害、減っているのは旱魃と風雹害である。

### （2）各省別の状況

省別の受災面積率の状況は別表 6－4 のように推移している。1980 年～1990 年の 10 年間と 1991 年～2000 年の 10 年間を比較すると、前者より後者の方が減少しているのは、黒

竜江、上海、山東、湖南の4省である。

また、省別の成災面積率の状況は別表6－5のように推移している。1980年～1990年、1991年～2000年の間の平均値を比較すると、前者より後者の方が減少しているのは、北京、内蒙古、黒竜江、山東、貴州の5省となっている。全ての省で災害の発生が多くなっているのではないことが注目される。